

新技術を活用した屋外貯蔵タンクの効果的な予防保全に関する調査検討会（第1回）

【議事要旨】

1 開催日時

令和5年7月20日（木）14時00分から16時00分

2 開催場所

危険物保安技術協会 第一会議室（対面方式及びWeb方式の並行開催）

3 出席者（敬称略 五十音順）

座長 辻 裕一

委員 江藤 義晴、御調 祥弘、西 晴樹、三原 毅、山田 實

4 配布資料

資料1-1 検討会員名簿

資料1-2 開催要綱

資料1-3 検討の背景と方針

資料1-4 適用規格の比較

資料1-5 放射線透過試験の適用対象

資料1-6 D-RTとF-RTの比較・分析による検証

資料1-7 検討スケジュール（案）

参考資料1-1 昭和50年5月20日付け消防予第52号 別添第4 放射線透過試験の指針

参考資料1-2 昭和52年3月30日付け消防危第56号一部抜粋

5 議事

（1）開催要綱が委員により決議され、承認された。

（2）委員の互選により、辻委員が座長に選出された。

（3）辻座長が西委員を座長代理に指名した。

(4) 議事1 検討の背景と方針

議事2 特定屋外貯蔵タンクの側板における溶接部検査へのデジタル放射線透過試験の導入に向けた調査・検討内容

資料1-3から1-6により事務局から説明が行われた。質疑の概要は以下のとおり。

【委員】

D-RTの規格であるJIS Z 3110:2017を前提として、特定屋外貯蔵タンクの側板におけるD-RTの導入に必要な一定のルールについて検討するということでよいか。

【事務局】

JIS Z 3110:2017の解説には、懸案事項が挙げられており、本則等では「契約当事者間の合意事項とする」とされている。そのうち、特定屋外タンクの側板に係るものの中で特に決めておく必要がある点について整理、議論していきたい。

【委員】

室内試験で一定のルール等を踏まえて、フィルムとデジタルで撮影した画像の差異を確認し、現地試験でも同様に運用して実際に問題が無いかという点を確認するということであるが、室内試験において、フィルムとデジタルの画像の差異について、どのように確認していくのか。

【事務局】

フィルム、デジタル共に、JIS規格に則り撮影し、合否判定に影響するような差異がないことを確認する予定である。

【座長】

撮影した画像の像質要求事項でフィルムとデジタルで比較可能な項目はあるのか。

【事務局】

針金形透過度計による識別最小線径は、フィルム、デジタルで比較可能である。ただし、JIS規格上の配置がフィルムとデジタルで異なるため、検討する必要がある。

【委員】

現地試験では、特定屋外貯蔵タンクを2基選定することとなっているが、どのようなタンクを選定される想定なのか。

【事務局】

特定屋外貯蔵タンクでも大型のタンクである80m級のタンク1基と中型のタンク1基を選定する想定である。

(5) 議事3 今後のスケジュール (案)

資料1-7により事務局から説明が行われた。

以上